

第5回三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会の開催結果（概要）

- 1 開催日時 平成20年2月29日（金）午後6時から8時35分まで
- 2 場 所 千葉県国際総合水泳場会議室
- 3 出席者 委員14名
（欠席委員：6名 清野、能登谷、古川、岡本、伊藤、庄司の各委員）
- 4 参加人数 50名

5 結果概要

（1）あいさつ

倉阪委員長からあいさつがあった。

（2）開催結果の確認委員

委員長からの指名により、吉田委員、上野委員が会議開催結果の確認を行うこととなった。

（3）議 事

議題1 第4回検討委員会の開催結果概要

事務局から第4回検討委員会の概要について説明があった。

議題2 干潟的環境（干出域等）形成、淡水導入及び自然再生（湿地再生）について（意見交換）

事務局から、「意見等の論点整理」により、第4回検討委員会における3事業に関する各委員の意見の内容や論点についての説明があり、質疑応答及び意見交換が行われた。

・

（主な意見等）

- ・ 猫実川河口域の浄化力の評価について、自然環境調査の結果と18年度実現化検討調査報告書の内容では、矛盾が生じている。
- ・ 前回言ったさらし砂試験に関する意見については、さらし砂の試験を批判しているのではなく、あの場所でモデル的な干潟的環境形成の実験をするということになるとふさわしくないとだけ言っているだけである。
- ・ 養貝場を試験等に活用するようにとの意見が記載されていない。
- ・ 養貝場については、養貝場の実績・状況を分析して、再生のための資料とすべき」という意見が載っている。

議題3 干潟的環境(干出域等)形成及び淡水導入に係る試験計画について

上野委員から「浦安日の出周辺における試験(案)」についての説明が、県水産課の塩野委員代理から「漁場再生検討委員会における物理環境等の検討状況」についての説明が、竹川委員から「猫実川河口域の堆積傾向調査等の報告」についての説明が、事務局から「干潟的環境(干出域等)形成及び淡水導入に係る試験計画(案)」についての説明があり、質疑応答及び意見交換が行われた。

(主な意見等)

(1) 浦安日の出周辺における試験(案)について

- ・ アマモは、魚の揺りかごになるという話は別にして、夏の暑い時に枯死してしまう。昔はアマモがいっぱいあり、ノリ養殖に非常に被害があった。
今、船橋も含め5箇所くらいでアマモを植えているが、市川航路の脇以外では、夏にみんな枯れている。日の出地区の干潟は、泥場とその間にある漕の影響で、どんどん大きくなり、そのお陰で漁場の沖が深くなった。
- ・ 日の出の埋立地区は、ちょうど波が回折する部分になっており、日の出の干潟は砂が溜まり易い環境が維持されているため、ここで何か試験をやることは、場所の1つとして良いと考える。
- ・ 護岸の上の後背湿地的なものの再生、昔あったアマモ等の再生、潮だまりの拡大等の3つの提案がなされたものと考えている。
- ・ 護岸の上に後背湿地的なものを造るというこの試験(案)について、護岸管理者の立場としてはどう考えるか。
- ・ 日の出の護岸は、必要高さ6メートル、沈下を見込んで6メートル30センチメートルの高さで施工している。試験のための覆土によって、この高潮堤防の機能が維持できるのであれば、構造的な問題はないと考えているが、前面には鋼矢板が打たれているので、掘ることによって安定性が損なわれないことが前提である。
- ・ 潮間帯の上の潮上帯から潮下帯までを含めた生き物の連続性が保てるようなことを護岸の上で試す案と理解する。塩浜2丁目完成護岸前面における干潟的環境形成との対比でやってみることは良いのではないか。
- ・ 潮だまりについては、ちょうど丸く壊れている形が良い。
- ・ アマモについては、漁業者の了解が得られるようであれば、石ころを横にやって砂・土を入れて、緩やかな傾斜を作る等工夫をした上でなら、やってみることも良いのではないか。
- ・ 一番下のステップの潮だまりになっているところに、砂を撒けば、結構おもしろいのではないか。たぶん20～30センチメートル撒いたくらいだと、引

き潮の時の浸透流によりどんどん吸い出されると思うので、捨て石などをうまく使いながら、流れ込みを工夫すれば、非常におもしろい結果になると思う。

- ・ 荒川での護岸の覆土の実例を資料として出してもらいたい。
- ・ 日の出護岸の後ろ側も緑道になるので、市と協力して、再生会議も一緒になって、三番瀬にふさわしい植生を考えていく体制ができればと思う。

(2) 漁場再生検討委員会における物理環境等の検討状況について

- ・ 資料に猫実川河口域がアオサの発生源と書かれているが、バックデータを示してもらいたい。
- ・ 資料の計算結果、底面付近のシールズ数のマップ等をうまい形で提供してもらえれば、どの場所に砂が付きやすいかという議論ができるのかと思う。

(3) 猫実川河口域の堆積傾向調査等の報告について

- ・ 猫実川下流も含め、カキ礁が大きくなったのは、下水の暫定放流が始まってからであり、これにより猫実川の澁も埋まってしまった。
- ・ 養貝場の話があったが、我々の共同漁業権区域内のことであるので、考慮してもらいたい。

(4) 干潟的環境(干出域等)形成及び淡水導入に係る試験計画(案)について

- ・ 塩浜2丁目完成護岸前面での試験案は良いが、市川市所有地前面での仮施設での試験案はちょっと無駄ではないか。
- ・ 浦安の境川でもアシを植えているので、参考にすれば良い。
- ・ 市川市所有地前面での試験について、シルト・粘土分50パーセント、70パーセントよりも、20パーセントと70パーセントというように、大きく変えて結果を見た方が良いのではないか。
- ・ 砂の移動試験について、どれだけ減ったかはわかると思うが、どこに行ったかはどのように調べるのか。蛍光砂を使った調査でもなかなか結果がわからないので、調査方法についても良く検討してもらいたい。
- ・ 完成護岸の前面での試験に賛成である。いっぱい議論するよりも、1つ1つ決めてやってみたらよいのではないか。
- ・ 試験は自然変動の範囲内で、泥干潟、漁業への影響を考えながら、できるだけ早めにやった方が結果がわかるので、並行的にやってみればと考えている。そこで、砂が全部出てしまったとしたら、どの位に広がるのか。
- ・ 試験をやるとしても小規模であれば、台風で流されてしまう可能性が強くなるので、しかるべく手当をした上で、養貝場で試験を実施した方が良いのではない

か。また、アサリを目標生物にするのであれば、シルト・粘土分50パーセント、70パーセントはどうか。

- ・ 目標生物、試験期間等を明確にしてもらいたい。
- ・ 市川市所有地前面での試験について、この規模であれば、大きな影響を与えるとは考えられないこと、仮設置により護岸からの距離を完成護岸と同じにすることも考えられているので、良いと思う。また、養貝場での試験は、場所が離れており、市所有地前面で実際にやろうとした場合には、データが使えるかわからないので、意味がないと考える。
- ・ 猫実川での試験は目標とするものを明確にしていく必要がある。水質などの環境を改善していくという目標も設定した上で、砂を入れていく必要がある。
- ・

(会場からの意見等)

(1)浦安日の出周辺における試験(案)について

- ・ 上野委員の案は非常におもしろいと思うので、ぜひ、浦安市側で実現してもらいたい。日の出は砂質が良いので、市川側と異なる生物がつく可能性があること、非常に距離が長いので、うまくいくと、将来的に、階段護岸の前面を全部干潟にできる可能性があるので、実現できるような形でうまく試験をやってもらいたい。1点問題なのは、ローウォーターレベル(LWL)とハイウォーターレベル(HWL)がコンクリートで切れているところがあるので、その部分をどのように連続性を持たせるかという議論も含め、是非やっていただきたい。

(4)干潟的環境(干出域等)形成及び淡水導入に係る試験計画(案)について

- ・ 完成護岸前面での試験については、護岸のモニタリングもあり、無理というような気がするので、調整を取りながらやった方がよい。
- ・ 試験の土砂投入によって新しい生物は生まれるかもしれないが、今いる生物がいなくなる可能性もある。事前の情報収集はいつやるのか。また、カキ礁とアナジャコの調査をしてもらいたい。

議題4 事前環境調査等について

事務局から、「干潟的環境(干出域等)形成及び淡水導入の試験に係る事前環境調査について(案)」及び「猫実川の深浅測量」により説明があり、質疑応答及び意見交換が行われた。

(主な意見等)

- ・ 深浅測量及び冬季分の事前環境調査はいつ実施するのか。

- ・ 猫実川の深浅測量は、いろんな意味で使えるのですぐにやって欲しい。
- ・ 漁場再生の資料等で、波と流れを良く踏まえた上で調査点を選べば、かなりの動きが把握できると思う。

議題5 その他

- ・ 第6回検討委員会は、平成20年3月28日(金)に開催されることとなった。

【委員長のまとめ】

次回検討委員会では、試験計画について、目標生物、試験期間、調査方法等も含めて更に検討を進める。

日の出周辺試験(案)については、観察舎を計画している浦安市とも連携を取りながら、専門家の意見を聴いて実現化可能な案を作っていく必要がある。

塩浜護岸前面での試験計画を作成するのに当たっては、護岸工事とのスケジュール等の調整を行う必要がある。

護岸検討委員会でのさらし砂試験についての検討状況の報告をお願いする。

アマモについては、漁業者が多く加わり既に検討を始めている漁場再生検討委員会が主体となって検討してもらうこととし、相互に連絡を取りながら進めていきたい。

淡水導入試験については、今後、県が考えていることを説明してもらいたい。

事前環境調査は、再生試験の実施位置とは切り離し、試験計画検討のため必要となる基礎データ収集のため、必要な調査を県として判断し、3月中に実施することで了解が得られた。

以 上